



黒畑小だより

北九州市立黒畑小学校 文責 校長 折田 清志

【学校教育目標】

家庭や地域との連携を図りながら「豊かな心と、たくましい体を持ち、自ら学び自ら考えることのできる、自立する力をもつ子ども」を育成する

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数・理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

カテゴリー	全国平均との比較	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を下回っており、無解答率も高かった。 漢字を書く問題や読む力を問う問題に課題がある。 漢字を確実に定着させるとともに、読む力を付ける必要がある。
国語B	下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を下回っており、無解答率も高かった。 文章や図を読んだり書いたりする問題に課題がある。 国語への関心、意欲を高めながら、言語活動を工夫し、読む力や自分の考えを表現する力を付ける必要がある。
算数A	下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均の正答率を下回っているが、年々その差が少なくなってきた。基礎的な計算練習を行ってきた成果が表れている。 図形領域を苦手としているが、コンパスや分度器など用具の使い方は習熟できている。今後、算数用語の確実な定着等、知識面に力を入れていく必要がある。
算数B	下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 全体では全国平均の正答率を僅かに下回っているものの、逆に全国平均の正答率を上回っている問題も多い。 記述式の問題に対する抵抗感が強く、無解答率も高くなっている。
理科	下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の技能についてはよく身に付いているが、全体的に「知識」「活用」の両面で定着が不十分である。 教えるべき内容と考えさせるべき内容を意識した指導が必要である。

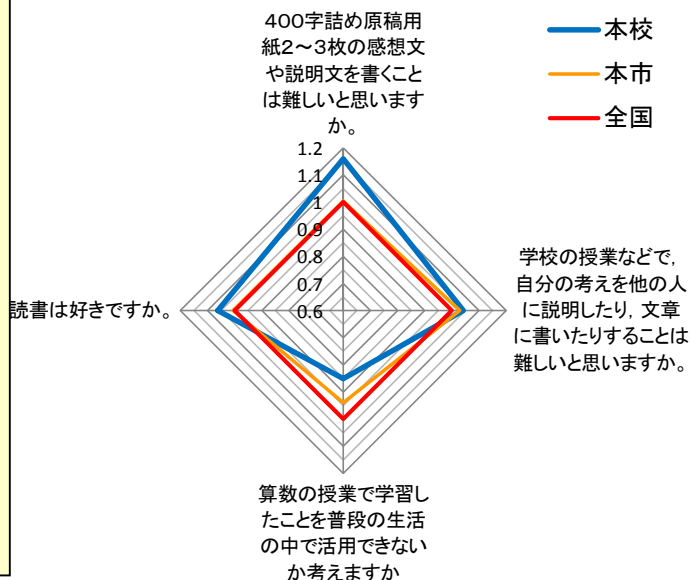
② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・読書が好きな児童が年々増えている。朝の読書タイムの継続的な取組や、読書への意欲づけ、読書環境整備等が効果をあげている。

・本校児童は文章を書くことに抵抗感を持っている。学力検査の結果からも、書くことの設問は無回答率が高くなっている。国語科において多様な言語活動を展開し、様々な様式の文書を書く機会を多くする必要がある。また、各教科において、自分の考えを整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、書く習慣をつける授業を積極的に行う必要がある。

・算数科については、授業改善に取り組むとともに、継続的な計算習熟タイムの位置づけにより、児童一人一人が意欲的に学ぼうとするようになり、全国平均正答率に年々近づいてきている。今後は、日常の事象と算数とを結んで、算数を活用するよさやおもしろさを実感できる授業を目指す必要がある。

本校と本市の対全国比(全国を1とする)

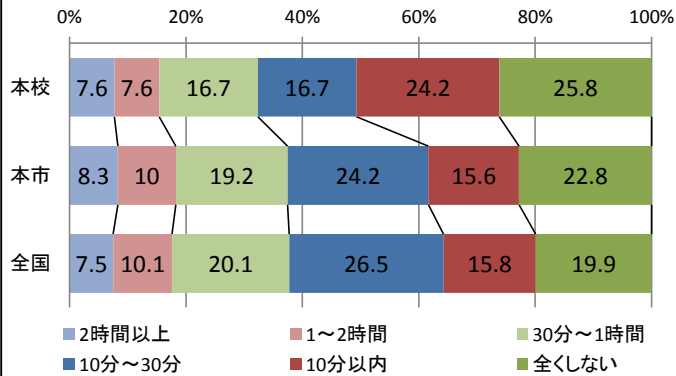


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

・読書に関しては、好きな児童多く、家庭においても2時間以上読んでいると答えている児童の割合が、大変高い。
 ・「家庭での学習時間」や「学習への計画性」は、依然低い割合にあり、課題である。また、家庭学習の内容として、学校の授業の復習をしている児童の割合は低い。家庭学習の量、質ともに、指導し改善が必要である。全校で時間のめやすを示したり、「チャレンジハンドブック」を活用して、具体的に学習内容を示したりして、児童自身が進んで家庭学習に取り組むことができるように働きかけていかなければならない。
 ・今後は、一層保護者へ働きかけ協力体制を築き、「チャレンジハンドブック」の定期的な提出確認を確実に実施し、児童の家庭学習の定着に取り組んでいく。

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

・本校の児童は、学校に来るのを楽しみにしており、欠席者も少ない。学校生活を楽しんでいると言える。
 ・平日テレビやビデオを2時間以上見ている児童がほとんどで、3時間以上見ている児童は半数以上もいる。学習習慣の確保や健康管理の面からも大変課題である。
 ・また、新聞を読んだり、テレビのニュース番組やインターネットから情報を得たりをしていない児童の割合が高い。社会に関心をもたせ、社会の動きや社会で問題になっていること等を知ることができるようにする必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 学力向上のための特設時間の充実
 - ・「読書タイム」(毎朝10分間)や「黒畑タイム」(5校時前の10分間)を全校一斉に実施する。
 - ・学年の発達段階や実態に応じた「黒畑タイム」の算数科課題を設定し、プリントを整備する。
- 国語科を中心にした校内研究の実施
 - ・言語活動を工夫し、自分の考えをつくり、交流する活動を位置づけたわかる授業の研究に取り組む。
 - ・多様な言語活動を展開させ、様々な様式の文章を書く機会を多くする。
 - ・学年に応じた話合いの仕方を身に付けさせる。
- 「書く」ことの習慣化
 - ・各教科において、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付ける。
- 国語辞典の積極的な活用
 - ・3年生以上は、国語辞典の活用を習慣化させ、各教科においても積極的に活用できるようにする。
- 子ども新聞の活用
 - ・学校図書館に掲示したり、お昼の放送のコーナーで紹介したりする。
- 算数科の「活用する力」を高める授業の実施
 - ・日常事象と結んで、算数のおもしろさやよさを実感できる授業の実施を目指す。
- 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートやWEB問題を長期休業中の宿題として活用し、基礎基本の徹底を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・家庭学習時間のめやすを示す。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用して、具体的に学習内容を示す。
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の定期的な提出確認を(月1回)行い、家庭学習マイスターを目指させる。
 - ・家庭学習マイスター賞への応募を積極的に促し、自学・自習の習慣を身に付けさせる。
 - ・学習参観、懇談会、学校だより、学年だより、家庭学習だより等、様々な機会を通して、家庭へ啓発していく。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校だより、学級懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
 - ・テレビやビデオを見る時間の制限を、各家庭で行うよう協力を求める。